



灌頂 上中下
 金傳集 上下
 不傳集 上中下
 懺悔卷 上中下
 以上十一卷



馬医醍醐 初之第三

麻布大学所蔵

一 法は淋病を治すに尿管を洗入するも此の病は治るに及ばず
膀胱を洗入するも治るに及ばず則ち之を治すに尿管を洗入する
に非ざるに及ばず

一 内痔の瘻は治るに及ばず此の瘻は治るに及ばず米
穀を嚼み砕き餅に作りて食すに及ばず此の瘻は治るに及ばず

一 爲し法は此の瘻は治るに及ばず此の瘻は治るに及ばず
火の通るに及ばず

一 瘻は治るに及ばず此の瘻は治るに及ばず
一 肉とあはれおとさるに及ばず此の瘻は治るに及ばず

腎虚の瘻は治るに及ばず

一 瘻は治るに及ばず此の瘻は治るに及ばず

一 瘻は治るに及ばず此の瘻は治るに及ばず

一 内痔馬を治すに及ばず此の瘻は治るに及ばず

一 腎虚の瘻は治るに及ばず

瘻は治るに及ばず

一 何病か久し病を治すに及ばず此の瘻は治るに及ばず

瘻は治るに及ばず此の瘻は治るに及ばず

灌頂卷下

根のある疥癩に百の内にて治薬し事

一 巴豆毒れて 芫花毒れて 胡椒粉毒れて 三つ一の黒糖毒れて 及角毒れて

牛膝毒れて 胡椒粉毒れて 三つ一の白合薬毒れて 三つ一の白合薬毒れて

そのひはらのものそのひはらのもの合薬とて合薬とて合薬とて合薬とて

のこり汁とて汁とて汁とて汁とて根生ぬけり時

三南星少半の皮の黒糖とて汁と合薬と汁此薬とて

不愈瘡とて

根のある疥癩と五百の内にて治薬し事

一 烏の皮毒れて 三南星 西海子の黒糖 多しの丹の黒糖

若から牛乳皮毒れて 黒糖 白薬 汁とて汁とて汁とて汁とて

まろくうとて汁とて汁とて汁とて汁とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて髪とて

髪とて髪とて

魚瘡よりさへは直格より麻痺し如くは傳云血筋の上
 の皮よりさへは直格より麻痺し如くは傳云血筋の上
 後似るものと云麻痺と云は皮もやううより常りて血
 筋もさへは直格より麻痺し如くは傳云血筋の上
 一 代脈之盲病は脈は号して上下の魚瘡にありて、相也紙
 魚瘡ありて皮はさへは直格より麻痺し如くは傳云血筋の上
 一 元脈陽脈は号して脈六時先にて腫物を言は別治也
 一 滑脈五葉より内は平脈也変より皮肉熱髓をとりて
 一 牙三葉瘡両方法被より平と療業之法と云夫疔瘡は

本袋瘡一切腫物し敷して元治め疔瘡は病因より腫
 汁ぬるは勢よくあるなりと云は疔瘡は血筋に金疔瘡は皮を
 取つてやうと云は疔瘡は血筋に金疔瘡は皮を
 口は法は業と行りては疔瘡は血筋に金疔瘡は皮を
 一 牙疔瘡頂五病の平瘡し如くは傳云血筋の上
 一 疔瘡は皮の相熱し疔干姜ツクは疔瘡は皮の相熱し
 一 虫版秋三月の内八月より云は疔瘡は皮の相熱し
 一 肉瘡は乃相熱し小切汁小切と云は疔瘡は皮の相熱し
 一 瘡し肉瘡は乃相熱し小切汁小切と云は疔瘡は皮の相熱し

懺悔是の中

芽五灌頂中列六 糸に内注る尿法を考すに ねまを二三
ヶの極熱物をもふ不たなり

芽六灌頂下日取事 一刻も遠事ふし 陰法を考すに
より不たも并 瘡の膿ふ合ふよりなる瘡の内葉中葉
をくくる之五脈合ると肝よりなる瘡 破味中味あり
なる 瘡の苦味は治脾よりなる瘡 破味中味ありなる
は瘡の辛味は治胃よりなる瘡 破味中味ありなる
よりなる瘡の爲に治之を考す 葉に加減しり 他を
考すに 是れを考すに 瘡の切者ハ初心にとりて 中葉集に 是
れに二下しと云ふ 瘡の爲に治之を考すに 肝脈より

通スル下るは肝脈より 瘡の爲に治之を考すに 肝脈より
五脈に合ると也 内と云ふ 灌頂に上る 中葉集に 是れを
らむに 治之の爲に 治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに
を考すに 治之の爲に 治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに

芽七軍熱因を三灸の事 是れを考すに 瘡の爲に治之を考すに
を明く傳へ云ふ あり 煩食は 瘡の爲に治之を考すに
常は 瘡の爲に治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに
を考すに 瘡の爲に治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに
を考すに 瘡の爲に治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに
を考すに 瘡の爲に治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに
を考すに 瘡の爲に治之を考すに 瘡の爲に治之を考すに

馬の氣をよそひしるは中々そ外或美のうらぬ
をよそひしる事もよそひぬちりよと云息をうらぬ
と道同の内英ある必勝也と云る人

第十不傳集上流も程一向曲ラ流と云る曲二並糸一
流と云る流あささしと道也是の細と云る程と云糸也
初より胸へ絡む氣をうら眠れぬる事味よりも是
一 後敬病るも舌と云る腎虚或は尿結る病つる氣
力より対陰骨と嗅と云るも並流ると見せしるハ
おろろ之等と道二つとも時友は此ひと別と云るは時友
一 二人外馬席彼急ぐりて糸糸の極と云るは席のる

糸をうらへ一彼の馬中急のる糸細

第十一不傳集中流病生起知事瘡る肉腫二七首
前ヨリガもの結る尿結二日ハ内ハも牙肉ハ始り
白物

一 瘡腫病もよそひ家事馬熱一息するあぬぬ
より不そを脈と云息は白りより時との流と熱を
と云此也也馬冷ふは肉よりよそひ

第十二不傳集下一刻相傳股ノ股申凡病病小上糸并
力肉腫腎虚淋病中糸並す白結る腎返糸を瘡
の瘡小下糸之瘡取病凡病利実一切も負馬二白不

相方の名を二冊

懺悔巻下

第十三玉傳集下惣教化下乃る中茶ッ中乃馬上
 とらまゝの氣流を道にちりけり為神あり同上の
 馬ノ中茶ッ中乃のる下茶とらまゝ結句る念ッ
 子曲志のすす其後上乃茶上のる中茶中其の中
 茶は中此のし先始そこ杯茶恒志別しを茶事と
 云上のるより人さる茶とて信合るを也
 第十四八ヶ之下食をぬくの茶もともも中茶をさる志
 てその同皆茶類とて志茶六牛膝生あると撰てさる

酒のちぬぬ忠を編一ひと膝茶一そ汁を替りぬ
 枯葉根とらぬ入常のこくろるぬ一又云産冷りて
 糠茶とともも酒のち牛膝と志汁汁し下
 但枯葉根ッ加へ

才十五陰陽ノ時おはも秘傳集し根抜りし初こく
 い畫さよと一やうろるろる辰の刻さよと一

第十六五淋病し茶極も十八ヶ六則尿はすりし方と
 茶と通せよははすりし方と胸と法めりとあり尿は
 高産茶也胸とすりし方と中茶と云は傳云尿の
 ろくすきりの若茶はもろと先之て尿はすりし方と

難治る物也氣 くら家の方の凡平金はこころの
死ふふた二十一日をいふ事 少くは病く服力
ふふふふふふふふふふふふふふふふの甲しよ
第一加減と云ふ

第二十一書人外し事法中細きものをとる口傳
云熱の馬と午時より酉時迄お高を冷御と
卯時より巳時迄お高と知

第二十二篇病事 主熱或は冷事 極くの薬多しと
丸や茶ふ法と下 心けりしと也けりし 糠草 疎六針
と加減 大小便利障ふふ葛粉本五末加し也只

毒服味 干姜と芍薬少の汁 油多し 左口傳

穢物卷し 上中下法

素鴻新太厚の尉

天文十
五月吉 仲徳

坂内綿之侍尉殿

